

95【緊急】あのジュースのことでご報告があります。

山形県立致道館高校 地域活性化ゼミ

1 動機

☆ 現在日本では規格外野菜が廃棄されることが問題となっている。規格外野菜とは **形、色、大きさ**などが市場に出す基準を満たさず通常の価格で販売することができない野菜のことを指す。このような規格外野菜を地域の方に食べてもらうとともに地元食材の美味しさを知ってもらうことで規格外野菜の廃棄量を減らしたい！という思いから活動した。

2 仮説

☆ 日本では現在約 **20万トン**ほどの量が規格外野菜として捨てられている。そこで私達は地元の規格外野菜でジュースを作り地域の方に飲んでもらい地元食材のおいしさを広めることができれば地域活性化につながるのではないかと仮説を立てた。

3 活動内容

- ①もんとあ〜る様や農家様、鶴岡 Dada様にご協力をいただき、鶴岡市の規格外野菜の現状を知る。
スイカ、トマト、メロンを集め、ジュースを製作！
搾りかすが出てくることに気づく。
- ②ジュースを校内試飲会、銀座秋祭りで販売 (9/29)
+アンケートの実施
販売形態、宣伝方法、店作りを試行錯誤。
- ③搾りかすを活用して、堆肥化について学ぶ
三郷原牧場様や東北イートップ様からご協力を頂き堆肥化について学び循環型社会について考える。
- ④県の発表会に参加し、貴重な意見をいただきました。
活性化を一時的ではな**継続的**にするには。

4 分析

- ①農家様の訪問から
3割近くは規格外のものがあるが、農家によっては自己消費や違った形や値段を変えて売っているところもある。
→私たちと規格外野菜に対する考えの違いがあることを認識
- ②アンケートから
→規格外野菜は味に問題はないため食べてもいいと思う人、食べたいと思う人が多かった。ジュースの味について**美味しいと感じた人が多くいた。**
- ③堆肥化について
→家畜の糞尿などを腐食土と共にコンポストに入れて、栄養のある土を作る。期間は一般的に**約三ヶ月**かかる。
- ④県の発表会から
→廃棄食材に対して協力してくれる**団体を求めている農家**がいることを再確認し、そのような農家さんと協力していくことが大切だと感じた。

5 まとめ

- ①継続的な供給先についてどのようにするか
多くの団体や企業との連携し、サイクルを確立し循環型社会に繋げていくことが必要である。
- ②地域活性化を身近なものにするために経費をどのように抑えるか。
今回の費用は6万円に対し、好ましい利益をあげられなかったため費用の改善が必要である。
- ③フードロスに対する意識を高めるために、消費者にどのような形で現状を知ってもらうか。
規格外野菜に対する消費者の認知が最も重要であり、今回の活動を通してより多くの方に現状を伝える事ができてよかった。
- ④1年間の活動を通して
一時的に地域活性をすることができたが費用面と継続性に課題が残った。



6 参考文献

食品ロスの現状と課題 <http://jsmcwm.or.jp/edit/kurashi/10/058orikasa.pdf>
すいかの需要動向調査状況 <https://www.alic.go.jp/content/001191047.pdf>
メロンの需要動向調査状況 <https://www.alic.go.jp/content/000126287.pdf>

ご協力
鶴岡Dada様
もんとあ〜る様
株式会社カクギン様
ワッツワッツファーム様
三郷原牧場様
東北イートップ様